

みんな元気に「輝いて生きる」。それが私達の願いです。

Information

介護支援スタッフ、  
生活支援スタッフ募集中!

未経験者  
歓迎

✉ sainyou@n-ikuseien.jp



0595-65-0271(担当:西浦・川出)



vol.122  
2022.2.1発行

発行:社会福祉法人 名張育成会 広報委員会 〒518-0615 名張市美旗中村2326  
TEL 0595-65-0271 FAX 0595-65-2936  
発行責任者:市川知恵子 編集責任者:川出将規 編集長:佐伯典昭(株式会社サンエイ)  
編集デザイン主任:新井知子(株式会社サンエイ) 題字:千秋育子

## 手作り紙芝居で広がる「共感」のよろこび ひびきのメンバーが始めた、手作り紙芝居の巡回

木枠で縁取られた、おはなしの世界。さっと絵が引き抜かれて場面が切り替わり、物語が進んでゆく…。紙芝居って、なんだかワクワクしませんか?そんな紙芝居を手作りし、法人内の事業所を巡回している『名張市地域活動支援センターひびき』のメンバー(利用者)たち。演じるごとに広がる共感に、夢を膨らませています。

名張市地域活動支援センターひびきでは、心の病に向き合っている方たちの地域生活や、積極的な社会参加をサポートしています。その一つである創作活動では、メンバー自身が取り組んでみたいことを話し合いで決めて活動します。

昨年の秋、「誰かのためにになることがしたい。例えば、子どもやお年寄りに絵本の読み聞かせをするとか…」という声に端を発し、「読み聞かせなら、紙芝居の方が私達も楽しそう!」「それなら作ってみよう!」と、全員が前向きになって取り組むことにしました。

それぞれが図書館で選んだ絵本から、『おばあちゃんのおせち』(野村たかあき著)と『おかげ犬タロのお伊勢まいり』(西村訓弘・磯部由香監修、かわいまさる作画)の2作品を作ることにしました。



実は木枠も手作りなんですよ! (裏面参照)



知的障害者が暮らす成峯での舞台。絵が繰り出される場面ごとに、共感の様子が吐息となって伝わってくる。

まず、プリントした原画をなぞって色鉛筆やパステルで着色。1カ月半の制作期間中に何人ものメンバーが協力してくれて、それぞれ塗り手の個性が溢れた、美しい絵に仕上りました。



演じ手を担当している4名のメンバー。「作るのは本当に楽しかった!」と口をそろえます。



放課後等ディサービスゆうらでの舞台。子どもたちがどんどんと物語に引き込まれていく。

そして何度も練習を繰り返し、いよいよ巡回です。緊張のあまり声の震えが止まらなかったみはた虹の丘こども園では、園児たちが予想以上に喜んでくれて一安心。また高齢者グループホームひかりでは、おせち料理の紙芝居に往時を懐かしみ、昔話にも花が咲きました。

「誰かのために」との思いからスタートした活動。楽しんで作った思い入れのある紙芝居で広がる共感に「これほどうれしいことはない。」と、喜びもひとしおです。現在、感染症対策の観点から、動画の試作も進めています。また今後は図書館などにも相談して

作品を増やし、巡回数を増やしたいと夢も膨らみます。動画でも、実演でも、たくさん的人に見てもらいたい力作。長く続けてほしいですね。(裏面に続く)

# 名張育成会の活動、ひとつずつ！

各施設の様子をお伝えする「MiRAiレポートブログ」から選り抜きの話題をご紹介します。

はてなブログ MiRAiレポート

検索

生活介護<とも>

## 今年もよろしくお願ひします！



去年に引き続き感染症拡大防止を優先しようと、ともの屋上に鳥居を建てて初詣することにしました。

まず、みんなで鳥居を製作します(\*^\_\_^\*)。どのような鳥居にするかを決め、段ボールを切って色を塗ります。そして段ボールを組み立てて完成(^\_-)-☆

さあ、鳥居をく

ぐって参拝です(\*^\_\_^\*)お隣りさんの成峯から、手作り賽銭箱を借りて、模造のお賽銭もいれました。皆さん何をお願いしたのかな？願いが叶うといいですね(\*^▽^\*)



▲ブログはコチラ

施設入所支援<成美>

## しめ縄作り



Tさんは、コロナ禍で外出できない入所者皆さんを元気付けようと、年の暮れに縁起物のしめ縄を手作りすることにしました。「小学3年生頃、おじいちゃん怖かったけど、身体全体で作り方覚えている」と言う通り、職員が自宅から持ってきた「わら」を「木槌」で叩いて柔らかくし、柔らかくなったりをねじって絡める。…その作業を繰り返して、素敵なしめ縄ができました！紙垂も取り付けて完成です！

玄関や食堂、2階、そしてみなさんの部屋の入口にも飾って、めでたく新年を迎えるました。今年はいい年になりそうです！！



▲ブログはコチラ



## (表面より) つながりを活かし、増やして



手にしているのは2代目の木枠。裏側からセリフを読むための窓や、画用紙の束を入れるスリットの幅などを修正し、苦労して完成させました。

この紙芝居の立派な木枠も、なんと手作り。「ひびき」に隣接する就労支援事業所「レインボークラブ」のものづくりチームに依頼したところ、喜んで引き受けってくれました。設計図などではなく、他の写真を見ながら試行錯誤を繰り返し、苦労の末に完成。

一つの事業所から始まった活動がつながって、どんどんと広がりを持つ。コロナ禍にあっても、他人を思い行動することで得る喜びの連鎖を、もっと増やしたい。やりがいや自信にも繋がると、4人の笑顔が物語っているように感じました。



取材：広報委員会記者U子  
(イラストレーター・ライター、名張市在住)



虹の会では随時会員募集しています。

支援を通じた仲間作り。一緒に活動しませんか！ 名張育成会後援会・虹の会 0595-65-0271